

彼の
こと、
今でも
知らない



コウ レイエイ

黄麗穎 写真展

2024年6月25日(火)～7月8日(月)
10:30～18:30(日曜休館／最終日は15時まで)



Huang Liying
I Still Do Not Know Him

本展示は、一人っ子である作者の家族を通して、中国の現代社会と伝統文化を描いた作品。中国の特殊な歴史的状況の進化の脈絡を示し、その発展の段階を視点と枠組みとして、社会的・制度的環境に隠された時代の傷跡を描き出す。そして、現在への反省の過程で、個人によって生み出され、維持される主観的な体験とその本質的な文化的意義を明らかにする。

・一人っ子政策について

1978年12月29日、中国政府は人口抑制のために「中華人民共和国人口と計画生育法」を制定し、1979年9月1日から一人っ子政策を正式に実施した。一人っ子政策の実施に伴い、少子高齢化やそれに伴う人口減少が起こり、労働力不足や国内の投資・消費の縮小などが問題視されるようになった。その対策として、2016年1月には、すべての夫婦が第2子を持つことを認める「二人っ子政策」を全面的に実施し、36年間にわたって人口増加を抑制した一人っ子政策が終わりを迎え、歴史の中に埋もれていった。さらに、規制緩和が加速した2021年、中国政府は「人口・計画出産法」の改正を行い、すべての夫婦に「第3子の出産」を認めた。

しかし、度重なる政策転換の背景には、急速な出生率の低下がある。その一因は、一人っ子政策時代に根付いた家族観や社会認識にあると考えている。一人っ子政策は終了したが、「一人っ子」の物語が続いている。



彼のこと、今でも知らない

中国の一人っ子政策時代、母は私より先にもう一人子供を妊娠していた。でも、思いがけず死産となってしまった。

民間伝承によると、胎内で死んだ子は仏の眷属で、前世の因果から一時的な縁で両親と繋がっていたという。その因果を断ち切るために、その子の靈魂が母胎に入って、カルマ（借り）を返す。その後、仏様の側に戻る。私の母親はそれを信じている。仏様に兄の面倒をよく見てくれるようお願いし、兄が私を順調に成長させてくれるようにと、母は毎年靈山に登り、お線香をあげて祈る。

子供の頃、兄弟が存在すると想像したことがあったが、今考えると、彼が無事に生まれたら、私はこの世にはいないのだろう。一方で、時間の流れとともに、私と両親が入れ替わったようだ。私が子供の頃は家で親の帰りを待っていたが、今では親が私の帰りを待ち続けている。

2016年からの二人っ子政策、さらに2021年、中国政府は3人目の出産を認め、一人っ子家庭は、滔滔と流れる長江に沈んでしまったようである。皮肉なことに、一人っ子政策の時期の親達は子供がたくさん欲しかったのに、今ではほとんど産めない状況で、産める若者たちは逆に産みたくないのである。そんな反転した時代に、生まれることができなかった兄弟が存在しているようで存在していない家を撮影し、河に沈んだ「一人っ子世代」を掘り起こすように、過去と現在、記憶とイメージの隙間から、「不在」を写し出すことを探求する。さらに、個人の記憶から社会的記録へ広げ、社会的・制度的環境を再考する。



コウ レイエイ 黄 麗穎



1998 年中国の四川生まれ。

東京工芸大学写真学科卒業。武蔵野美術大学映像・写真コース修士修了。

制作において、自身の世代に焦点を当て、個人の経験や周囲で起こる出来事を取り上げ、それらを社会的、制度的な背景と結びつけ、過去と現在、記憶とイメージの間にある隙間から物語を紡ぎ出す。この過程で、「私人」から「社会共有」へと向かう私的なイメージの進化の過程や枠組みを探求し、「個体」を記録する価値を模索する。

受賞歴

写真学科スペシャル特別審査員賞 伊藤ヒロコ賞 (2020 年)、フォックスタルボット賞 佳作 (2022 年)、APA AWARD 2024 文部科学大臣賞、武蔵野美術大学修了制作 優秀賞 (2024 年)。

グループ展

「写真学科スペシャル アワード 2020」ソニーイメージングギャラリー、「東京工芸大学卒業展」東京工芸大学中野キャンパス (2022 年)、「フォックスタルボット賞 受賞写真展」写大ギャラリー (2022 年)、「武蔵野美術大学小林ゼミ展」ルデコギャラリー (2022 年)、「T3 STUDENT GALLERY 2023」JR 東京駅、「APA AWARD 2024 公募展」東京都写真美術館、「武蔵野美術大学卒業修了優秀作品展」武蔵野美術大学美術館 (2024 年)。

Nikon Salon

ニコンサロン

163-1528

東京都新宿区西新宿1-6-1

新宿エルタワー28階

ニコンプラザ東京内

0570-02-8080

